

郷土史料館

封建時代の日本のお城の一般的な姿をモチーフにした博物館です。江戸時代には、ここから数キロ離れた、現在の JR 長岡駅に長岡城がありました。

1868 年、明治天皇のもとで幕府軍と帝国支配の回復支持者の間で勃発した戊辰戦争で焼失しました。1898 年に敷地内に鉄道の駅が開業しました。

博物館のエントランスファサードのデザインの一環として、城の城壁の一部だった大きな岩をここに運んできて、博物館の壁にはめ込んでいます。これらの岩は、内部に展示されている歴史の物理的な記憶を表しています。

1968 年に開館した長岡市歴史資料館は、長岡の歴史から現在に至るまでの歴史を紹介しています。長岡藩を長く率いてきた大名の遺品や身の回りの品々が展示されています。例えば、大名自身が手書きで書いた詩や詩などがあります。

他にも長岡市とその周辺地域出身の歴史上の著名な人物を記念しています。長岡城を築いた堀直寄（1577-1693）、悠久山公園の創設者でエネオス石油の創業者でもある山田又七（1855-1917）、戦時中の艦隊司令長官である山本五十六（1884-1943）などがいます。